

全高書研会報

全日本高等学校書道教育研究会

事務局(代行)

群馬県立吉井高等学校
〒370-2104
群馬県高崎市吉井町馬庭1478-1
國定 貢
TEL027-388-3511
FAX027-388-2298

出版部

三重県いなべ総合学園高等学校
〒511-0222
三重県いなべ市員弁町御園632番地
天野 太輔
TEL 0594-74-2006
FAX 0594-74-4104

印刷

光出版印刷株式会社
〒515-0044
三重県松阪市久保町1885-1
TEL 0598-29-1234
FAX 0598-29-0265



全高書研和歌山大会を終えて

全日本高等学校書道教育研究会 副会長 寶田 康彦
(大阪府立枚方高等学校校長)

本研究会の会員の皆様、書道教育の推進にご尽力されている皆様、日ごろから本研究会の諸活動にご理解とご協力をいただき誠に有難うございます。

さて、八月二十一日・二十二日に第五十回全高書研和歌山大会を、全国から二百七十六名のご参加を得て開催することができました。ご来賓並びに企画にご協力いただきました先生方、ご発表いただいた先生方、ご参加いただいた皆様、運営に携わっていただいた先生方、和歌山県をはじめ近畿ブロックの先生方に、心より感謝申しあげます。誠に有難うございました。

を活用した学習や作品制作、ユニバーサルデザインを取り入れた授業展開など、ICTやDXを利活用した実践も紹介されました。美術科や音楽科との横断的学習と共同制作、美生推進教室の取組みや支援学校との共同学習、地域での作品発表など内容も豊富で、皆様には様々な気づきや学びを得られたことと思います。

指導講話では、文部科学省教科調査官の豊口和士先生から、各発表に関する示唆に富むご指摘をいただくとともに、学習指導要領の改訂に向けて、「見方・考え方」を中心に置く概念や方略、教科内容の構造化、「本質的な問い」の尊重など、今後の方向性もご教示いただきました。

トークセッションでは、ベテラン教員に加え、大阪教育大学の瀬川賢先生、奈良教育大学の西村大輔先生にもご登壇いただき、採用五年目までの教員からの質問に対し、ご自身の経験談や大学教育の視点からもご助言をいただきました。

発表者の先生方は、実践から得た学びと成長のポイントをまとめたり、各府県の先生方どうしで研究を深めたり、準備から発表や協議に至るまで、お忙しいなか粘り強く向き合って来られました。勉強会での専門役員の先生方からの指摘をもとに貴重な気づきも得られたことと思います。こうした研究活動でのやり取り、その実践と成果の集大成である研究大会での成果の共有は、言わば「気づきと創発のコラボレーション」そのものであると考えます。

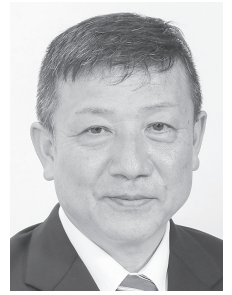
故に、「学びと成長」は生徒だけのものではなく、私たちの「学びと成長」でもあります。生徒自身・生徒どうし・生徒と先生・先生自身・先生どうしと、「学びと成長」は関わる者すべての関係の中で相互に作用し合い、複合的・重層的な好循環を生み出すことが望ましく、その好循環を創り出すことが私たち教育者の役割であると考えております。

そして、今回の各発表のまとめに、「地域の良さを発見した」「自分の作品に愛着と達成感を感じた」「主体的に課題に向き合い自ら学びを深め、他者に説明することで共有化できた」「答えのない問いに対し、発問を重ね論理的思考が深まった」「一体感や達成感成長を実感した」「人では気づくことができない学びが数多くあった」など、様々な成果が示されていました。

様々な気づき、主体的な学習態度、作品への愛着や達成感、自己肯定感や成長実感が醸成されていること、自分の意見の伝え方を考えたり、他者の意見も参考にしながら表現を工夫したりしていること、生徒自身の理解やリフレクションが深まっていることは大きな成果であり、こうした成果を生み出すことも書道教育の役割であると考えます。

令和六年十二月の「文化芸術教育の充実・改善に向けた検討会議 審議のまとめ」の中で、「芸術系教科は、問いやテーマ、答えを自分でつくりだしていく学習であり、これから先の不確実な、見通しがなかなかもちにくい社会の中でこそ「重要となる」とあるように、その重要性はこれからもますます高まっているものと思います。

令和八年度の富山大会、令和九年度の宮城大会と、私たちの「気づきと創発のコラボレーション」はつながっていきます。これから共々に研究を深めてまいります。



様々な「学びと成長」が実感できた和歌山大会 【近畿ブロック開催】

和歌山大会 大会長 **大石 歩**
(和歌山県立和歌山東高等学校長)

このたびの和歌山大会は、全国より二七〇名近くのご参加をいただき、本当にありがとうございました。遠方より参加された皆様から感謝申し上げます。

今大会は、初めて和歌山県が会場となることで、全国の先生方が集まって授業および分科会発表ができる会場探しからスタートしました。

それに伴う予算の問題、また発表者の選出と研究内容、さらに大会運営の準備とその進め方等、本県では一部を除いて全高書研大会への参加経験が少ない教員がほとんどで、全くの手探り状態で進めてきたように思います。そのような不安の中、【近畿ブロック開催】というこのプロック制に大きく救われました。「近畿は一つ」を合い言葉に、近畿六府県の理事の先生方

を柱に据え、役割分担から大小様々な課題や相談を毎月のオンライン運営委員会で何度も話し合えたからこそ、今大会を何とか無事に乗り越えられたのだと思っております。近畿ブロックの先生方には本当にお世話になりました。改めて感謝申し上げます。

さて、今大会は「『学びと成長の書道教育』」書道教育の役割とこれから」というテーマを掲げて開催いたしました。昨年度より完全実施となった学習指導要領の趣旨を踏まえ、近畿ブロックの九名の先生方に様々な研究発表をしていただきました。

歌山の笠井千景先生、タブレットを活用し探究的活動を取り入れながら古典書風についての授業実践を発表された京都の森啓先生、答えのない問いをテーマに主体的・対話的な授業実践を大田垣蓮月と香紙切を題材に発表された兵庫の阿部泰秀先生の三名による発表でした。

また分科会発表では、デジタルポートフォリオを活用した兵庫の角宗郎先生、臨書からではなく創作から仮名学習の指導実践を試みた大阪の松岡千雅子先生・森真記子先生・町田千智先生による協同研究発表、清代の隸書作品を題材に探究的要素を取り入れ、做書学習の発表をされた奈良の上明代和宏先生、協働しながら磨崖隸書をモチーフに合同作品制作を発表された大阪の増

井悠航先生、自作詩文で作品制作しながら自己肯定感を育む取り組みを発表された京都の糸川奈央先生、敢えて古典に準拠せず、ロウ書き染めを活かした創作実践を発表された滋賀の押谷達彦先生など、紙面の都合で十分な説明・報告は差し控えますが、どれも大変充実した発表でした。詳細な発表内容につきましては、研究集録および和歌山大会WEBサイトを是非ご覧ください。

二日目午前には文部科学省の豊口和士調査官より、現在実施されている「学習指導要領」のポイントと更に新しく改定されようとしている次の「学習指導要領」の要点について講話をしていただきました。次の改訂によつて、更に書道教育が進展することを強く望みます。

文部科学省後援 **令和7年度** 書写検定のペンころちゃん

硬筆・毛筆 書写技能検定試験

●後援
文部科学省・全国都道府県教育委員会
全国高等学校校長協会・全日本中学校長会・全国連合小学校長会・全国高等学校 PTA 連合会等

一般財団法人 **日本書写技能検定協会** 〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-41-3
https://www.nihon-shosha.or.jp

令和7年度1回	
【試験日】	【申込み期間】
6月15日(日)	4/1~5/16
令和7年度2回	
【試験日】	【申込み期間】
11月9日(日)	9/1~10/10
令和7年度3回	
【試験日】	【申込み期間】
8年2月8日(日)	12/1~1/19

書写検定 検索
詳細・各種お問合せはこちら

そして二日間にわたり、豊口先生には各発表を足繁く廻つていただき、本当にありがたうございました。

二日目午後に行われました企画「若手教員と大学教員によるトークセッション」は、閉会式後に行われたにも関わらず、たくさんの先生方に観覧していただきました。採用五年以内の近畿ブロックの若手教員の代表三名と大阪教育大学准教授の瀬川賢一先生、奈良教育大学准教授の西村大輔先生による座談会です。書道教員は各校に原則一人しかいないために、授業展開の工夫や教育現場での悩みなど、特に書道に特化した悩みは日頃相談する機会がありません。若手教員の悩みを聞くことで、観覧された先生ご自身も授業を振り返るきっかけになったのではないのでしょうか。時間に余裕がございましたら、会場で観覧されている全国の若手教員の先生方からの悩みやご意見も共有できれば、より充実したトークセッションになったかもしれません。

授業研究発表

A【漢字仮名交じりの書】「書道Ⅱ」

言語活動の充実を目指して、地域の魅力を発信！ 田辺かるたを作ろう！

和歌山県立神島高等学校 教諭 笠井 千景

今大会でテーマに掲げている「学びと成長」は決して生徒に向けられただけに収まらず、発表者自身にとつては勿論のこと、発表を参観された先生方にとつても様々な「学びと成長」があったのではないかと強く感じています。そして今大会の運営において、私が最も「学びと成長」を感じたのは、近畿が一丸となつて大会運営ができたことです。近畿の各府県が、大会成功に向けてお互い協力し合えたこと、府県を跨がつて仕事できたことが何より素晴らしかったです。

最後に、今大会に向けてご助言・ご協力いただきました全高書研本部役員の先生方、誠にありがとうございました。今大会を機に書道教育の役割とこれから見つめ直し、その充実に向けて今後一層の努力が必要になるかと存じます。そして、次期開催の富山大会【北信越ブロック開催】の成功と全高書研大会の益々の発展を心から祈念いたします。

この度は多くの先生方に遠く和歌山まで足をお運びいただき、開催の一員として大変嬉しく思っております。また、私の拙い発表をお聞きくださり、本当におりがたうございました。大会当日に至るまで丁寧にご指導くださいました先生方、サポートいただいた大会関係者の皆様、様々な面で協力してくれた本校職員、多くの方のお力添えにより発表を終えることができました。心より感謝申し上げます。

本校は、商業科専門教育と普通科教育をともに行う総合制高校です。スクール・ポリシーと学校運営方針に基づき、「神島屋」や「神島塾」等様々な活動を行っている本校の特色を生かし、

本校生徒の課題であるコミュニケーション能力と、課題発見・解決能力を養いたいと考え、本単元を設定しました。作品制作にあたっては美術科・音楽科協力のもと、三科合同制作としました。初めは美術科に声を掛けただけだったので、音楽科からも良ければ一緒に、と言ってもらい実現したものです。普段から連絡と相談を密にし、協力していたからこそだと、ありがたく思っています。単元の展開は、自身の課題だと感じている言語活動を充実させること、これまでの学習との関連を図ること、ICTを活用すること、の三点を考え設定しました。また、単元を貫く問いを設定することで、学びの深まり

上品で力強くつややかな墨色。黒味にこだわった書道液

作品用書道液 それぞれの濃度に適した伸び、
運筆の良さで書き易く、製品の
安定性、乾き、表具性に優れた
樹脂系作品用液体墨です。

玄徳

普通濃度 中濃墨 超濃墨

選べる 4種の濃度

呉竹公式HP

株式会社 呉竹 〒630-8670 奈良市南京終町7-576
TEL:0742.50.2050 FAX:0742.50.2070



使い継がれて半世紀以上、安心安定の墨液。

玄宗
シリーズ
Since1972

玄宗

作品用 / 合成糊使用
力強い紫紺系の墨色
4種類の濃度タイプ

墨液・中濃墨液・濃墨液・超濃墨液
各200ml、500ml、2L

墨運堂 検査

墨運堂 株式会社 〒630-8043 奈良市六条1-5-35
TEL:0742-52-0310 FAX:0742-45-6880





を促すように意識していません。実践では、想定していないところでつまづく生徒がいたり、パソコンの操作に手間取ったり、上手いかなということも多々ありましたが、この研究を通して授業改善にまた一つ取り組むことができ、新たな挑戦をすることもできました。この研究成果と課題は、今後に生かしていきたいと思えます。

本大会は持続可能な全国大会を目指し、授業研究でも生徒を動員するのではなく、学校での授業の様

子をビデオで撮影し、動画で発表することとなりました。せつかくなら動画であることのよさを生かしたいと考え、従来の研究授業では見られなかった、導入や準備の様子から完成した作品まで、単元の流れも分かるように動画を作成しました。研究の趣旨が「言語活動の充実」だったこともあり、その活動を見ていただけるように工夫しましたが、先生方の参考になる部分が少しでもありましたら幸いです。

発表に関して、多くの先生方に様々なお声をいただきました。本校生徒の活動に対するお褒めの言葉、今後のさらなる授業改善へのご助言、激励のお言葉、いただきましたお声一つひとつを大切に、これからも和歌山県の教員として、微力ながら尽力してまいりたいと思えます。今後ともご指導のほど、よろしくお願いいたします。

B【漢字の書】「書道Ⅰ」

探究的な学びによる古典の書風理解

タブレットを活用した書法探究

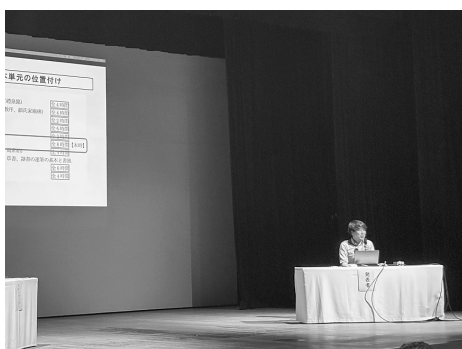
京都府立綾部高等学校 教諭 森 啓

この度は、貴重な研究発表の機会を与えてくださった和歌山大会関係者の皆様、また当日の発表まで綿密なご指導をいただきました京都府、近畿、全高書研役員の先生方に心より感謝申し上げます。

本単元の授業内容は、ペアワークで、対話的な学習を軸として、探究の観点を

用いて活動を進めます。唐の四大家より二つの古典を選択し、その古典にテーマを設定し、書籍や動画を探りながら、臨書を行い、最終的にそのテーマについてロイノートを活用して発表し、全体で鑑賞するというものでした。

今回の発表を通して、「探究的」「主体的」「対話的」という三つのキーワードについて考える機会をいただきました。「探究的」な学びについては、自身が設定した課



題に対して、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見いだすことができる良さがあるとされています。芸術科書道の授業は、鑑賞、臨書、創作など様々な活動がそもそも「探究的」であると言われますが、授業に「探究的な視点」を学習活動として組み込む工夫を検討していく必要があると感じました。本研究では、「探究の手法」を学習の観点として取り入れる試みを行いました。「主体的」については、生徒のどのような状況が「主体的」であるかを教師ができる限り明確にし、生徒に提示しなければ「記録に残す評価」「指導に生かす評価」にも繋がらないと考えました。また、安易に「提出物の状況」や「授業態度」のみで評価をするのではなく、「学びに向かう力、人間性等」の単元目標に導くような発問、学習活動、支援を計画の段階で構築しなければならぬと考えました。

「対話的」については、自身の授業が生徒の対話が「目的」となっていたように思います。全高書研会長の木村先生よりも「学習の質を向上させる手段として対話がある」とお話しただきました。対話の必要性の検討、対話の準備(知識・環境など)、また対話は、教師と生徒との対話(発問・支援など)、教材との対話(古典や先哲など)があり、「対話的」な活動こそ、教師の責任が強く伴った学習活動なのではないかと考えま

した。
今回、全国の先生方と情報共有の中で、①「探究的な学び」をどのように授業に生かすか②ペアワークのメリットやデメリット③準備、片付けを含めた50分授業での構成④テーマ設定の方法⑤年間授業計画の中での位置づけ、についてコメントをいただきました。研究の至ら

ない部分を痛感するとともに、先生方の授業に対する熱い気持ちに感銘を受けました。
最後になりましたが、本大会に参加させていただいた経験を生かし、今後も更に授業研究を進めて参りたいと思います。今後ともご指導の程、よろしくお願いいたします。

【仮名の書】「書道Ⅱ」
主体的・対話的で深い学びのための仮名の書の授業実践例〜大田垣蓮月と香紙切の学習を通して〜

身の価値観を獲得していく授業を作つていきたいと考えました。
ただ、そのような授業は単発的なものでは効果が薄く、何度も何度も発問と対話を繰り返しながら、徐々に深めていくものだと考えております。生徒が書と、或いは自分自身と向き合うことに根気強く付き合う胆力が必要だと感じました。また、今回の発表で課題も多く見つけられました。私自身固定された価値観に囚われず、生徒の自由で豊かな感性に寄り添っていききたいと、改めて感じることができました。

【仮名の書】「書道Ⅱ」 主体的・対話的で深い学びのための仮名の書の授業実践例〜大田垣蓮月と香紙切の学習を通して〜

灘中学校・高等学校 教諭 阿部 泰秀

この度は、第五十回全日本高等学校書道教育研究会和歌山大会において、授業発表という大変貴重な機会を与えて下さり、心より御礼申し上げます。運営にあたり、ご尽力して下さいました先生方にも改めて御礼申し上げます。また、発表にあたり、授業内容や指導案、発表内容等ご指導下さいました多くの先生方には心より感謝申し上げます。

また、実践を行いました兵庫県立洲本高等学校の先生方や生徒たちにも感謝の意を述べさせていただきます。

今回の授業を行ったきっかけは、『生徒が受動的な授業から脱却したい』という思いからです。「この作品はどのように書きますか」と教員が伝え、それができたかどうかで評価をしていく授業ではなく、生徒が苦しみながらも書と向き合い、自

身の価値観を獲得していく授業を作つていきたいと考えました。
ただ、そのような授業は単発的なものでは効果が薄く、何度も何度も発問と対話を繰り返しながら、徐々に深めていくものだと考えております。生徒が書と、或いは自分自身と向き合うことに根気強く付き合う胆力が必要だと感じました。また、今回の発表で課題も多く見つけられました。私自身固定された価値観に囚われず、生徒の自由で豊かな感性に寄り添っていききたいと、改めて感じることができました。

今回の研究協議では、参加して下さいました先生方にご意見を頂く機会を設けました。活発な意見交換と、情報提供をして下さり、私自身勉強になることが多くありました。改めて、参加して下さいました方々には御礼申し上げます。芸術の美という曖昧なものに対し、普遍的な価値をどのように見いだすのか、また、主観的な美的感覚を尊重し合える関係性を作ることを、今後の課題としていきたいと思っております。



私の発表が終わった後、沢山の先生方が休憩時間も話をされていたのが印象的でした。片付けをしながら聞き耳を立てておりましたら、各学校で行っている様々な実践の話が聞こえてきました。先生方が各学校で孤軍奮闘している様子が想像できます。私も「こんな授業で大丈夫かな」と常に二人で不安と闘いながら教材研究に励んでおります。今回の大会で得られた一番の財産は「自分と同じように苦勞しながら創意工夫をし、書の魅力を通して生徒の成長を応援している先生が、日本にこれだけいるんだ」と気づけたことです。この大会をご縁に関わりを持つことができた皆さんに背中を押してもらいつつ、今日も生徒と向き合っていきます。



分科会(研究発表)

A「漢字の書」 書道I

書道Iにおける共同作品制作の取り組み

とデジタルポートフォリオの活用

兵庫県立神戸鈴蘭台高等学校 教諭 角 宗一郎

この度は、第五十回全日本高等学校書道教育研究会和歌山大会において分科会発表の機会をいただきましてありがとうございます。

本実践では、行書の単元において共同作品の制作活動を取り入れることで、生徒の行書への苦手意識の軽



減を図るとともに、学習への主体的な関わりを促進することを目指してきました。

授業中の生徒の様子、ポートフォリオの記述内容、さらには実施前後に行ったアンケートの結果などを総合的に分析したところ、生徒たちは活動を通して「仲間と力を合わせて作品を完成させる達成感」や、「目標に向かつて努力することの充実感」を実感していたことが読み取れました。

加えて、互いの成果を認め合う姿や、制作過程における試行錯誤をポジティブに捉える態度も見られ、学習に対する前向きな姿勢の醸成が本実践の中で確かに促されていたことが確認できました。

これらの点は、本実践における成果の一つであると考えています。

また、本実践で制作したポートフォリオについても、多くの先生方から貴重なご意見を賜りました。

とりわけ、三観点の見取り方における評価規準の設定については新たな示唆を得ることができました。

例えば「このような記述・表現があればA評価とする」といった基準一つを取っても、多様な考え方や視点があり、今後の改良に向けて大きなヒントをいただくことができました。

本実践のデジタルポートフォリオについては、当然ながらいまだ発展途上の段階にあります。

今後は、生徒の実態や本大会で頂戴した先生方からのご助言を踏まえつつ、改良を重ねながら、より良い形を追求してまいりたいと考えております。

本実践で得られた成果と手応えを踏まえると、今回の単元構成を二つの実践的モデルとして位置づけることができ、他の単元においても展開・応用していくことが可

能であると考えます。

今後、生徒一人ひとりの主体的な学びと表現の深化を支える授業づくりを、より豊かな書教育の在り方を探究してまいりたいと考えております。

なお、正直なところ私自身もICTに精通しているわけではございません。今回作成したポートフォリオも、Excelにおいてセルを結合し、簡単なプルダウン機能を取り入れた程度の簡易なもので、特別な機能を加えたものではありません。この実践を通してICTに苦手意識をお持ちの先生方にも「これなら自分にもできそうだ」と感じていただき、取り組みの一助となれば幸いです。

最後に、今回の大会に向けてご指導・ご支援を賜りました全高書研会員の先生方をはじめ、多くの先生方に心より感謝申し上げます。

A「仮名の書」 書道I

仮名の書の少字数による創作から仮名の書の美の理解へ〜用筆・運筆を大切に〜

大阪府立金剛高等学校 教諭 松岡 千雅子

大阪府立生野高等学校 教諭 森 真紀子

大阪府立門真西高等学校 教諭 町田 千智

この度、全高書研和歌山大会分科会で授業実践の発表をさせていただきました。

約二年前からさまざまな準備をし、多くの先生方や事務局の皆様からご意見、ご指導をいただき、発表当日まで何度も試行錯誤を繰り返

し、無事に発表を終えるこ

とができました。関係の皆様には本当にお世話になりました。心より感謝申し上げます。また、発表当日も多くの仲間の先生方に見守っていただき、大変心強く感じました。ありがとうございました。

本単元は「仮名の書」の

本単元は「仮名の書」の



基本的な用筆・運筆を大切にしながら、少字数での作品制作を古典の臨書より先に行うことで、古典の美しさを理解し仮名の幅広い表現につながるのではないかと考え、実践した授業の発表でした。創作を臨書より先に行うことにより、自分と筆との呼吸を合わせて生まれる仮名の線の美しさを理解することができ、古典の鑑賞・臨書において、文字の形だけでなく筆の動きを読み取り、表現できるようになると考えました。

また、限られた授業時間で「仮名の書の美の理解」に繋がるように、仮名の作品制作のための教材や資料を発表者三人で協力して考えました。毎年、「仮名の書」

の授業を実践している中で、「仮名の書」特有の書を構成する要素である「用筆・運筆」「連綿」や「構成(散らし書き)」などを生徒が理解しやすいようにと教材研究するものの、自信が持てず曖昧にしていた部分なども三人で持ち寄り、悩みを打ち明けながら教材を制作できたことは、本当に有意義な時間でした。今回の教材や資料でも、実践してみるとまだまだ不十分で改善の余地はたくさんありましたが、今後につなげていける大きな財産になりました。



今回の発表を終え、指導案のボリュームに悪戦苦闘しながら、「指導と評価の一体化」にも苦しみましたが、

非常に勉強になることも多く、実りのある経験であったと思います。また、他の発表者の先生方からも良い刺激を受け、自分の課題であるICTの活用も、積極的に取り入れていこうと前向きにもなれました。何より、今まで以上に良い授業をし

たいという意欲が沸いてきて、日々の授業研究の活力の源になつていきます。

最後になりましたが、今回の大会に向けてご指導賜りました全高書研役員の先生方、大会運営にご尽力くださった先生方に心よりお礼申し上げます。

B「漢字の書」書道Ⅱ 主体的な表現・鑑賞の学び〜清代隸書作品による做書学習〜

奈良県立畷傍高等学校 教諭 上明代 和宏

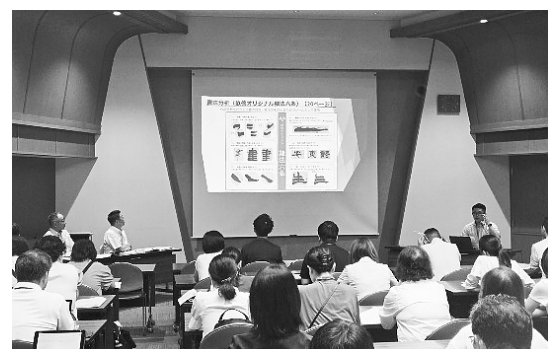
この度は、私の拙い発表をお聞きいただき、誠にありがとうございました。

「いってみよう」という曖昧な目標設定による制作活動によって、学んできた知識や技能を十分に生かされず、意図に基づいて表現したり、創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることが出来ていないのではないかと感じたことです。こうした状況では、生徒の主体的な学びは実現したように見えても、実際には十分な学びにつながっていない場合が多いのではないかと考えました。

はじめに、このような貴重な発表の機会を与えてくださった和歌山大会の関係者の皆様、そして発表に至るまでご指導を賜りました先生方に心より御礼申し上げます。

今回の実践の契機となったのは、漢字の書における創作活動が、しばしば「集字した古典の文字を做書しただけ」という段階にとどまっていること、または「生徒の感性だけに任せて、自由に書

そこで、臨書と創作をつな



ぐ「做書学習」を漢字の書の単元として設定することで、生徒が古典から学んだことを踏まえて、新たな表現へとつなげていけるような学びをデザインできるのではないかと考えました。また、学習指導要領が示す、書の見方・考え方を働かせた表現また鑑賞活動の実現に向け、做書学習を通じて生徒が書の幅広さや奥深さを実感的にとらえ、それをもとに自らの創作活動に生かすことができるような単元の構築も併せて行いました。本実践の中で、生徒が自身の表現の意図に基づく表現をすることの

喜びや難しさを味わう姿が多く見られました。しかし、生徒の反応にはやや個人差があり、授業の成果が明確に表れた生徒もいれば、そうでない生徒もいました。課題

がこれから向き合うべき書道教育の核心であると考えています。まだまだ至らないところばかりですが、このような舞台で発表させていただいたことを糧に、今後実践と授業改善を重ね、新たな書道教育のあり方を模索してまいります。そして、今回の実践

設定が生徒の深い学びにつながるのか」を問い続けることが大切であると痛感しております。生徒が真に主体的に学習に取り組み、豊かな人間性を涵養し、創造性、感性を育て、そして何より、深く「書の本質」に向き合うための学びの場をどう構築するか―そこが、我々

がもし先生方の授業の二助となることがありましたら、成果や課題をぜひ共有させていただきます。共に授業改善を進めていければと願っております。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

B【漢字の書】書道Ⅱ

合同作品制作において、協働する活動を通して創造する「この喜びを実感できる授業」

大阪府立今宮高等学校 教諭 増井 悠航

本発表では、大阪府立今宮高等学校の書道科における、共生推進教室（障がいのある生徒）と総合学科生徒の協働制作実践についてお話をさせていただきました。

今宮高等学校は総合学科

の特色を活かし、二〇二〇年度から共生推進教室「ソレイユ」を設置しました。しかし、生徒同士の深い関わりが少なく、「話が続かない」「邪魔にならないか心配」といった声があり、真の共生環

境の構築が課題でした。

そこで、書道科では「開通褒斜道刻石」を教材に、全七名（総合学科六名、ソレイユ名）で做書作品制作を実施しました。生徒たちは原寸大資料を見て第一印象を付箋に記録することから始め、その後、専門家の評価と自身の印象を照らし合わせながら学習を積み重ね、「開通褒斜道刻石」についての理解を深めていきました。練習段階では相互に意見交換を重ね、最終的に一枚の大きな紙に順番に筆を渡しながら合同作品を完成させました。

ソレイユ生には、書道免許を持つ入込教員がマンツーマンでサポートに入りました。指示を短く具体的に伝え、スモールステップで活動を構成し、視覚的手がかりを多用しました。例えば鑑賞活動では「何が書かれているか」「どこが良いか」と段階的に問いかけることで、徐々に意見形成ができるよう支援しました。ソレイユ生は「緊張したが、

皆と一緒に書いてよかった」と達成感を表現し、他生徒への具体的なコメントも述べられるようになりました。個別の指導計画における短期目標の評価も向上しました。総合学科生徒は「二人では得られない達成感」を実感し、多様性の受容と共感が育まれました。生徒の「書道は一人で行うもの」から「協力するときに本来の力が出る」への認識変容は特に印象的でした。

今後は生徒数増加に対応するための準備や仕組みを

C【漢字仮名交じりの書】書道Ⅱ

生徒の自己肯定感を育む授業を目指して～対話を軸に自作の言葉で作品を制作しよう～

京都府立南丹高等学校 教諭 糸川 奈央

この度は、全高書研和歌

感謝申し上げます。

山大会分科会にて貴重な発表の機会をいただき、ありがとうございました。今回の発表に至るまで全高書研本部役員の先生方や近畿ブロックの先生方の手厚いサポートのおかげで無事に発表を終えられましたこと、心より

『学びと成長の書道教育』書道教育の役割とこれからの『』という大会テーマが発表され、どのような発表ができるのだろうかと悩みました。教員として、平成の高校生、そして令和の高校生と接した経験から、時代によって生



徒が抱えている課題が異なることに気付きました。令和の高校生がたのしく書道を学ぶためには何が必要なのか。そう考えたことが本研究のきっかけでした。

現行の学習指導要領に示されているキーワード、「なにごとができるようになるのか」「ここに着目し、生徒が『できた』と思える授業づくりを目指しました。それが確認できる手段として、授業の冒頭でその日の詳細なタイムテーブルを口頭で伝えるとともにパワーポイントでも

示しました。視覚と聴覚との両方で情報を示すことで、指示が明確に伝わり、その分、生徒と関わる時間を多く確保できました。また、技術の上達などの高度な『できた』は、自己肯定感が低い生徒には少々ハードルが高いため、小さな目標をいくつかに設定し、生徒が達成感を感じやすくなる工夫をしました。

活動の中で対話がなければ、このように自己肯定感が育まれる機会が少なくなるのかもしれない。そう考えると、自己肯定感を育む上で対話は必須と考えます。

生徒のことを考え、授業を計画しているつもりでしたが、まだまだ生徒の知らない部分がたくさんあるようです。生徒の自己肯定感を育

C【漢字仮名交じりの書】書道Ⅰ 古典に準拠せず、自分なりの漢字仮名交じりの書を書く

滋賀県立伊吹高等学校 教諭 押谷 達彦

この度は、近畿ブロックの一

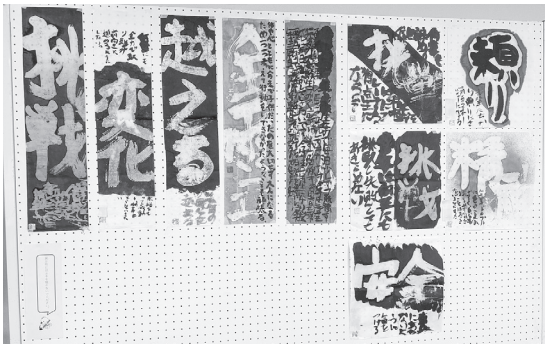
ことに感謝申し上げます。

員として滋賀からも発表を、と依頼されて研究発表をする運びとなりました。理事をつとめているとはいえ、大会にきちんと参加するのは何十年ぶりのことで、発表のフォーマットもずいぶん様変わりしててとまどうことばかりでしたが、ブロックの研究部の皆さま、本部副理事長にはたいへんなご指導をたまわり、お手間をお掛けしてどうか発表にこぎつけた

発表冒頭に、自分は漢字作家である、ことを申しました。そしてそれ以前に書道の教師であり、またそれ以前に学校の教員である、ということに信念にしていると申しました。これは新任時に先輩の先生方から注入された意識です。書かないで書の楽しさが伝えられるか、学校の仕事をきちんとしない書道ばかりするな、と滋賀では教わってきました。



私は「書を教える」のではなく「書で何かをつかんでほしい」と考えて授業を作っています。私が授業の中心を創作活動、とりわけ漢字仮名交じりの書としているのは、古典の臨書を蔑ろにしているわけでは毛頭なく、現代に生きる若者すべてがほんとうに書の良さに触れられる、体験できる分野だと思っているからです。今を生きる高校生にふさわしい活動として、グループでの「探究活動」と、「書く内容」から自分で作り出す活動に



重点を置いていきます。どのような書くかも過年度の生徒作品を観察してグループで「どのように書いているのか」「このように書く意味は何か」などを探究して実践していく中で、自分なりの表現を模索しています。授業の合言葉は「見たことがない作品を書こう」。

導入で、とにかく字の大きさを揃えて字間・行間をゼロに、潤滑をつけるために強く、速度も最大限、で書く理由は、行間や余白、筆の抑揚は「物差しで測れない」から。余白を探究していく中で、自然と文字大や

行間に自然な変化が生まれてくるのです(その中に仮名色紙の臨書や構成の探究から余白を考える活動があり、タイトル趣旨から外れてしまいますが…)。同様に、授業実践を中心に組み立てるフォーマットに合わせるため、発表の中心が『ロウ書き探究』となつてしまい、ますますタイトルがぼやけてしまったことも反省です。

また、探究活動の素材となる生徒作品もある意味「お手本」になつてしまっているとも、気付かされました。子どもたちの作品に無限の可能性があるように、授業もまだまだ改善の余地がありそうです。



【重要】今後の全高書研会報及び諸連絡の方法について

平素より、当会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨今の印刷費用、配送費の高騰等により、現在の会報発行体制が維持できなくなってきました。そこで会報の発行回数を縮小するとともに、ホームページを使った情報発信へ舵を切ることといたしました。

今後の全高書研からの諸連絡は原則全高書研ホームページで発信していきます。また情報の新着はマチコミを使ってご連絡いたしますので、ぜひご登録をお願いいたします。

全高書研ホームページ：<http://zenkoushoken.sun.bindcloud.jp/index.html>

○ マチコミとは (以下は企業サイト <https://machicomi.jp/> より)

- 学校と保護者が手軽に使える情報共有ソフトで、2025年1月1日現在 全国の学校等教育施設への連絡網サービス導入施設数は14,776です。
- 全国215の自治体で導入・活用されています。
- メールアドレスは登録者本人がシステムに直接登録するため、全高書研側が登録者のメールアドレスを受け取ることはありません。メールアドレスを非公開のまま利用できるためメールアドレス流出の心配や迷惑メールの心配もありません。
- プライバシーマークを取得しており、個人情報を扱う企業として公的に認定されています。
- 全高書研は無料プランを使用しますので、アプリ内への広告掲載やマチコミリサーチの配信が行われますがご容赦ください。

○ 登録の方法は別紙をご覧ください。

研究部報告

研究部部长

東京学芸大学附属高等学校

教諭 松原 直也

○全国研究大会に向けての 授業研究および研究発表 の支援等について

全国研究大会における授業研究および研究発表の準備にあたっては、指導と評価の一体化の観点を踏まえながら、その書式・様式に沿って、研究活動の支援および推進をおこなってきました。今年度実施されました、和歌山大会の研究発表に向けては、これまでの準備の成果と、開催県の和歌山大会運営委員会の方針を踏まえながら、教育課程・学習評価に関する専門役員会、本部署役員および本部署事務局、本部署研究部で協議しながら準備を行なってきました。さらに、来年度の開催となる、令和八年度に開催される富

山大会の支援も含め、開催県の支援等を進めていきたいと考えています。

なお、令和八年度開催の富山大会における研究活動の支援等については、令和四年度開催の岐阜大会以降、会則第四章 第二十一条により設置されました、教育課程・学習評価に関する専門役員会によって行われてきた、全国研究大会に向けた支援の内容等を踏まえ、全日本高等学校書道教育研究会の事業計画に沿い、本部署研究部としての計画を、今後詳細に立案していきたいと考えています。また、富山大会の開催に向けては、開催県において設定された大会のテーマ等の確実な実現に向け、富山大会運営委員会、本部署事務局、本部署事務局、研究部・事業部研究推進委員会および本部署事務局で協力しながら、大会の成功に向けて、事業を進めていきたいと考えています。

○公立中高一貫校の書写書道教育の状況調査について

『高等学校学習指導要領

(平成三十年告示) 解説芸術(音楽美術工芸書道編)において示された、「国語科書写との円滑な接続」の実態について、調査協力校の協力を得ながら、令和六年度教育課程の資料提供のご依頼とアンケート調査を

年度当初に実施させていただきました。(*全国の公立中高一貫校二四二校の書写書道ご担当の先生方へ依頼) 期日までにご回答をいただきました調査結果(*十三校)をもとに、「全国公立中高一貫校での書写書道の運用概要」として、今年度開催されました和歌山大会の情報交換会の中において報告させていただきました。中高一貫校ならではの、国語科書写と芸術科書道との円滑な接続を目指した回答をいただきました。

今回の調査では、例えばアンケート調査の回答方法等について課題があり、回答数が少数に留まったと考えられます。今後、回答の回収方法やアンケート調査の依頼の時期、また質問内容

や質問項目等も含めて再度検討を行い、今後国語科書写及び芸術科書道との円滑な接続や、中高一貫校の書写書道教育のあり方などについて協議を行う際に活用できる有益なものとなるよう、調査を継続して行なっていくたいと考えております。

編集後記

全高書研会報九十九号をお届けします。全高書研副会長の寶田康彦先生(大阪府立枚方高等学校校長)をはじめ、ご多忙の中原稿をご執筆頂きました先生方には深く感謝申し上げます。

さて、本号は先日開催されました和歌山大会の報告記事を主として構成させて頂きました。和歌山大会は八月二十二日に和歌山県和歌山市・和歌山県民会館で行われ、全国から多くの先生方に御参加頂き、盛況裡に終えることができました。

昨年に引き続き、開催時期を八月にしたことにより、全国から多くの先生方にご参加頂くことができましたと思っております。今大会は経験豊富な先生方による実践発表に留まらず、近畿地区の若手の先生

方による発表も多く見られました。新しい視点からの授業展開・授業デザインは、より良い気付きを得る機会となりました。またインクルーシブ教育を踏まえた実践発表が多く見られたのも今大会の特徴でした。工夫を凝らした取り組みは、共生社会の形成に向けた大きなヒントとなりました。このような貴重な機会を得ることができましたのも、運営に携わられた先生方、また御多忙の中、研究発表をお引き受け下さり貴重な実践を発表頂きました先生方のお陰と存じます。この場をお借りし深く感謝申し上げます。

次回大会は令和八年八月、富山県富山市で開催予定です。こちらにもまた多くの先生方に御参加頂き、実り多いものとなりますよう願っております。

(天野)



授業研究発表

8月6日(木) 12:45～13:45

- 1 【漢字仮名交じりの書】書道Ⅰ 富山県立富山いずみ高等学校 教諭 中野 里咲
ウェルビーイングを育む『漢字仮名交じりの書』～育成したい資質・能力と『書きたい』意欲を結ぶ～
- 2 【漢字の書】書道Ⅰ 長野県飯田風越高等学校 教諭 小池 タ子
ウェルビーイングを追求し実現できる書道とは～一人ひとりの「好き」や「楽しい」、「なぜ」を追求する
「探究県」長野の学び～

分科会(授業実践発表)

8月7日(金) 9:30～11:00

A 個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指した授業

【漢字の書他】書道Ⅰ 富山県立新川みどり野高等学校 教諭 谷内 浩
個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指した授業の実践
～より良く生きる(自己肯定感の向上)に繋がる書道授業を目指して～

【仮名の書】書道Ⅱ 全日本高等学校書道教育研究会研究部 東京学芸大学附属高等学校 教諭 松原 直也
全日本高等学校書道教育研究会研究事業専門役員会 小室 信男
美術館での鑑賞活動を通して、書の美の効用等を自身と関連付け「書の伝統と文化を学ぶ意義」を見出す
授業づくり ～自分で問いや答えを作り出していく学習に向けた主体的な鑑賞の機会の充実～

B スクール・ポリシーを意識した授業

【漢字仮名交じりの書】書道Ⅰ 富山県立富山高等学校 教諭 上村 貴子
少しのしかけで大きな変容！対話を深めて、自分の理想の表現を探る授業実践

【漢字の書他】 福井県立若狭東高等学校 教諭 太田 祐貴
生徒が問いを立て、思いや意図に基づいた表現活動に取り組むことで、自らの変容を実感できる授業

C 書の伝統・文化に親しむ態度の育成を目指して

【鑑賞】書道Ⅰ 新潟県帝京長岡高等学校 教諭 佐藤 栄里
ふるさと良寛の書の鑑賞を通して豊かな感性を育む

【鑑賞】書道Ⅰ(3年生) 岩手県立盛岡商業高等学校 教諭 清水 大輔
学校近くの原敬記念館で原敬の書道作品(扁額、掛軸)や書簡(手紙)を鑑賞し、書の伝統と文化について
考える

小分科会(ポスターセッション「私の一押し授業」)

8月7日(金) 12:50～14:20

標記実践例について、発表および質疑応答等での意見交換・交流(計30名発表予定)

(お問い合わせ先) 第51回全日本高等学校書道教育研究会 富山大会【北信越ブロック開催】
富山県立呉羽高等学校 教諭 大木美佳恵
〒930-0138 富山県富山市呉羽町 2070-5
TEL: 076-436-1056 FAX: 076-436-1058



第51回全日本高等学校書道教育研究会
富山大会[北信越ブロック開催]ご案内(第3次案内)

富山大会テーマ

『書道でウェルビーイング』
～より良く学び、より良く生きるために、
書道教育はいかに貢献できるのか～

2023年のG7富山・金沢教育大臣会合で「富山・金沢宣言」にウェルビーイングの向上策が盛り込まれ、大きな話題を呼びました。富山県では成長戦略の軸としてウェルビーイングを推進し、行政、教育、民間の様々な場面でそれに向けた取り組みが見られるようになりました。ユニセフの報告によれば、日本の子どもたちの精神的幸福度は先進38カ国中37位と最下位レベル。書道を通して、何を身に付け、学んだことをどういかせば、精神的な幸福度をあげられるかを模索する大会に出来ればと思います、今大会のテーマを設定しました。

予測困難な時代を迎える中で、学校教育には、生徒が様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成して新たな価値につなげていくことなどが求められています。新しい形で開催された前々回の川崎特別大会や前回の和歌山大会からバトンを引き継ぎ、書道を学んで得られた力を元に、書道を学ぶことで、自己肯定感を高めたい。富山大会ではそれを体現する教育を全国に発信したいと思います。

大会の会場となる自然豊かな富山市で、書道教育に対する熱い思いを寄せる全国各地の皆様とともに、これからの高等学校芸術科書道教育活動についての学びを深め、ウェルビーイングを高めることができれば幸いです。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

会 期 令和8年8月6日(木)・7日(金)
会 場 富山県民会館
〒930-0006 富山市新総曲輪4-18(富山駅徒歩10分) TEL:076-432-3111
大会講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 豊口 和士 先生(予定)
大会参加費 6,500円(大会集録費を含む 予定)

大会日程(予定)

◇第1日目 8月6日(木)

9:30～	10:00～ 10:40	10:50～ 11:30	11:30～ 12:45	12:45～ 13:45	13:55～15:10	15:20～16:00	16:10～17:00	18:30～ 20:00
受付	総会	開会式	昼食	授業研究 発表	授業研究発表 研究協議	ブロック別 情報交換会	研究部・事業部 研修推進委員会 活動報告	教育懇談会

◇第2日目 8月7日(金)

9:00～ 9:30	9:30～11:00	11:10～12:00	12:00～ 12:50	12:50～14:20	14:30～15:00
受付	分科会(授業実践発表)・ 研究協議	基調講演会	昼食	小分科会 (ホスターセッション)	閉会式 研究成果報告 次期大会案内

教育懇談会 令和8年8月6日(木) 18:30～20:00
ホテルグランテラス富山(会費7,500円 予定)
〒930-0004富山市桜橋通り2-28 TEL:076-431-2211

併 設 展 「第30回全日本高等学校書道コンクール大賞受賞作品展」
「校内(地域)の書鑑賞レポート」 他



第52回全日本高等学校書道教育研究会
宮城大会【東北北海道ブロック開催】ご案内 (第1次案内)

宮城大会テーマ

『筆をバトンに 学びをつなぐ、生きて広がる書写書道教育』
～学びから創造に 書道教育による美的情操の育成を目指して～

会 期 令和9年8月9日(月)・10日(火)
会 場 トークネットホール仙台 (仙台市民会館)
〒 980-0823 仙台市青葉区桜ヶ岡公園 4-1
(地下鉄南北線 勾当台公園駅より徒歩 10分) TEL:022-262-4721

大会講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 豊口和士 先生 (予定)
大会参加費 6,000円 (予定)
教育懇談会 令和9年8月9日(月) 18時30分から20時00分
会 場 未定
会 費 未定

大会日程 (予定)

◇第1日目 8月9日(月)

9:00～ 10:00	10:00～ 10:40	10:50～ 11:30	11:30～ 12:45	12:45～ 15:15	15:35～ 17:00	18:30～ 20:00
受付	総会	開会式	昼食	分科会発表 協議	ブロック別 情報交換会	教育懇談会

◇第2日目 8月10日(火)

9:00～ 9:15	9:15～ 12:00	12:10～ 12:40	12:40～ 13:40	13:40～ 15:20
受付	全体発表 協議	全体会 閉会式	昼食	全体会 大会講評 講演会

(お問い合わせ先) 第52回全日本高等学校書道教育研究会
宮城大会【東北北海道ブロック開催】事務局
宮城県石巻好文館高等学校内 教諭 遠藤 睦実
〒 986-0851 宮城県石巻市貞山3丁目4番1号
TEL : 0225-22-9161 FAX : 0225-22-9163